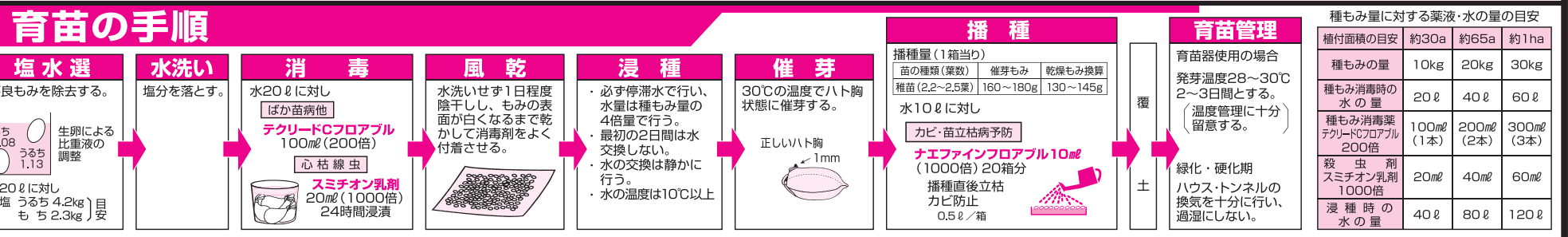
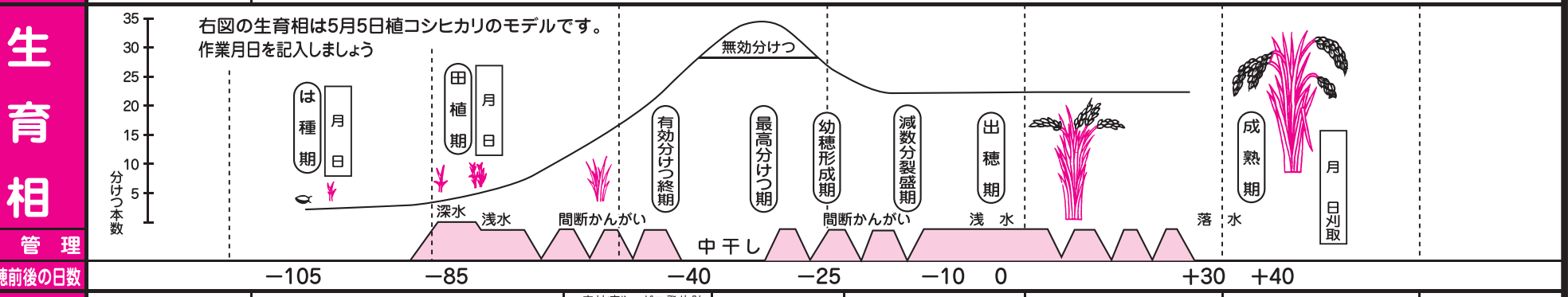


## 栽培管理日誌は必ず記入し、出荷にあたっては必ず提出しましょう。

◆ JA米について ◆ JAグループ広島では、平成19年産米から安全・安心を基本とした「JA米」に全面的に取り組んでいます。JA米とは、3つの要件を満たし、かつJA米以外のお米と区別して、契約・検査・集荷・販売されるお米です。  
\* ★ JA米の3つの要件 ★ 1. 毎年の種子更新又は育苗センターで購入した苗。 2. 検査機関で検査されたお米。 3. 栽培履歴及び自己点検チェックシートの記載されたお米。 \*



時期	10~3			4			5			6			7			8			9			10	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
生育のめやす	コシヒカリ	田植-20日 播種	出穂-85日 田植	出穂-79日 追肥①	出穂-40日 追肥②	出穂-18日 穂肥①	出穂-10日 穂肥②	田植+85~90日 出穂	出穂+40日 成熟期														
	コシヒカリ	田植-20日 播種	出穂-81日 田植	出穂-74日 追肥①	出穂-40日 追肥②	出穂-18日 穂肥①	出穂-10日 穂肥②	田植+80~85日 出穂	出穂+40日 成熟期														
	つきあかり	田植-20日 播種	出穂-78日 田植	出穂-68日 追肥①	出穂-40日 追肥②	出穂-24日 穂肥①	出穂-10日 穂肥②	田植+75~80日 出穂	出穂+40日~45日 成熟期														
	あきさかり	田植-20日 播種	出穂-90日 田植	出穂-70日 追肥①	出穂-40日 追肥②	出穂-24日 穂肥①	出穂-10日 穂肥②	田植+90~95日 出穂	出穂+40~45日 成熟期														



### 主な作業

異常気象にも強い健康な稲を作るには、地力の増強が第一です。冬季農閑期に、「土づくり」をしっかり行いましょう。

- 基肥は、代かき前に施用して下さい。
- 代かきは、ねりすぎないように注意しましょう。
- 播付け本数は3~5本、播付け深さは2~3cmを目安に下さい。
- 除草剤は適期に使用し、水管理に注意して下さい。

【高温対策】  
○ 「けい酸加里」を出穂前40日頃に施用しましょう。  
○ 有効分けつ数を確保したら、根の健全化のために中干しを行なって下さい。

○ コシヒカリは出穂の18日前と10日前を目安に穂肥を施用して下さい。  
○ その他の品種は出穂の24日前と10日前を目安に穂肥を施用して下さい。  
○ 穂肥は葉色や草勢により調整して下さい。

○ 出穂後の追肥は、食味の低下につながるため行わないで下さい。  
○ 出穂期は最も水が必要な時期になります。水管理に注意しましょう。  
○ 高温が続く場合、水を掛け流し、水温の上昇を抑制しましょう。  
○ 出穂前後の病害虫防除を行ないましょう。

○ 早期の落水は、品質と収量の低下につながるため、落水は出穂後30日以降を目安に下さい。  
○ 収穫は青味もみ率5%~10%を目安に行なって下さい。  
○ コンバイン収穫のみは、変質しやすいので、なるべく当日に乾燥・調整を行ないましょう。

○ 収穫後は早めに耕耘し、稲わらの腐熟促進を図って下さい。  
○ 紋枯病及びごま葉枯病の発生した圃場では、稲わらを持ち出して下さい。

### 土づくり肥料施用例 (10a当りkg)

肥料名	施用量(10a当り)	備考
アヅミン	30~40kg	腐植酸配合により、地力増進効果が高める。
牛ふん堆肥	700~1,000kg	春先までにすき込む。
ミネラルG	100~200kg	ごま葉枯病の発生する秋蒔田。
ミネラルPK	60~100kg	L型肥料で不足しがちな、リン酸と加里を補給。

### 箱処理剤 (圃場にあったものをいずれか一つ選択)

薬剤名	対象	施用時期
スクラム箱粒剤	ウンカ・紋枯病対策	は種時~移植当日
サンエース箱粒剤	稲こらじ病対策	移植3日前~移植当日
防人箱粒剤	ウンカ対策	は種時~移植当日
Dr.オリセリディア箱粒剤	いもち病対策	移植3日前~移植当日

### 液剤体系

薬剤名	対象	施用時期
ビームエイトスタークルソル	いもち病・ウンカ類・カメムシ類他	出穂前7~5日 / 収穫7日前まで
ブレードスタークルソル	いもち病・ウンカ類・カメムシ類	出穂後5~7日 / 収穫7日前まで

### 粉剤体系

薬剤名	対象	施用時期
ビームレモンセレン粉剤DL	いもち病・紋枯病・ウンカ類 / コブノメイガ・カメムシ類・ごま葉枯病他	出穂前10日 / 収穫21日前まで
ブレードスタークル粉剤DL	いもち病・ウンカ類・カメムシ類他	出穂後5~7日 / 収穫7日前まで

### 防除体系

農薬散布後7日間は、落水・かけ流しをしないで下さい。

### 日数

代かき -7日 田植 +0日 +5日 +10日 +15日 +20日 +25日

### 除草剤使用基準

\* 体系処理は①か②のどちらかで行なってください。

処理方法	初期剤	体系処理剤
①	初期剤処理(播種後~移植7日前まで)	体系処理剤適期
②	初期剤適期(移植後)	体系処理剤適期

### 中後期(発生に応じて使用)

薬剤名	対象	施用時期
モゲトン粒剤	藻類・ウキクサ対策	2~3kg/10a 発生初期(収穫45日前まで) ※湛水散布 3回まで
トドメMF1キロ粒剤	ヒエが残った場合	1kg/10a 移植後14日~ノビエ5葉期(収穫50日前まで) ※湛水散布 3回まで
トドメMF乳剤	ヒエ以外の雑草が残った場合	200mℓ/10a(水100ℓに溶かす) 移植後14日~ノビエ7葉期(収穫50日前まで) ※湛水散布 または落水散布 2回まで
バサグラン粒剤	ヒエ以外の雑草が残った場合	3~4kg/10a 移植後15日~収穫45日前まで ※落水散布 1回まで
ウィードコア1キロ粒剤	コナギ対策	1kg/10a 移植後7日~ノビエ4葉期(収穫60日前まで) ※湛水散布 2回まで
レプラスギア1キロ粒剤	ヒエおよび広葉雑草が残った場合	1kg/10a 移植後14日~ノビエ4葉期(収穫60日前まで) ※湛水散布 1回まで
トドメバスマF液剤	ヒエおよび広葉雑草が残った場合	1000mℓ/10a(水100ℓに溶かす) 移植後15日~ノビエ6葉期(収穫50日前まで) ※落水散布 2回まで

### 施肥設計例

品種	土づくり資材(月日)	施肥体系	基肥(月日)	追肥①(月日)	追肥②(月日)	穂肥①(月日)	穂肥②(月日)
コシヒカリ	ミネラルG 100kg 苦土重焼燐 20kg	分施肥型	い〜ね403改 20kg	い〜ね403改 5kg		い〜ね707改 10kg	い〜ね707改 5kg
		分施肥型(ベース施肥)	ネオペースト2号 25kg			い〜ね707改 10kg	い〜ね707改 10kg
		一発型	早生い〜ね755 30kg				
つきあかり	ミネラルPK 60kg	分施肥型	い〜ね403改 50kg	い〜ね403改 10kg		い〜ね707改 15kg	
あきさかり	ミネラルG 100kg 苦土重焼燐 20kg	分施肥型	い〜ね403改 35kg	い〜ね403改 15kg		い〜ね707改 10kg	い〜ね707改 5kg
		分施肥型(ベース施肥)	ネオペースト1号 40kg			い〜ね707改 10kg	い〜ね707改 5kg
		一発型	JBあきさかり502 40kg				

\* 昨年倒伏が激しかった圃場や、堆肥を1,000kg以上施用した圃場では、肥料の施用量を1割~2割程度減らして下さい。 ※ 農薬内容はR7.10月末現在の登録情報を参考に作成しています。無断転載禁止!

◎ 農薬の安全使用基準を守って正しく使いましょよう!!

◎ 良質米づくりの基本は土づくりから!!

◎ お米はJAへ!!

◎ 農作業中の事故のないよう注意しましょよう!!